

# 第2次甲賀市観光振興計画【概要版】

～蘇れ、甲賀流忍者 みんなの力で このまちに～

## 第1章 計画の策定にあたって

### 1. 計画の趣旨

### 2. 計画の概要

#### (1) 計画の位置づけ

本計画は、平成29年度から始まる第2次甲賀市総合計画を上位計画とする、観光分野における個別計画として位置づけられるものであり、観光の振興を通じて第2次甲賀市総合計画に定めた「あい甲賀 いつもの暮らしに “しあわせ”を感じるまち」を実現することを目的としています。

#### (2) 総合計画における施策と観光との関連

#### (3) 計画期間

平成29年度から平成40年度までの12年間を本計画の計画期間とします。また、総合計画の基本計画が4年ごとの見直しとなっていることも含め、12年の計画期間を4年ごとの3期に区切り、各期の最終年において、進捗状況や社会情勢、経済情勢を踏まえた見直しを行うものとします。

## 第2章 甲賀市の観光振興における現状と課題

### 1. 観光を取り巻く情勢と甲賀市の現状

#### (1) 訪日外国人旅行者の現状

#### (2) 国内旅行の現状

#### (3) 滋賀県の現状

#### (4) 甲賀市の現状

### 2. 甲賀市の観光振興における課題

#### (1) まちづくりの視点からの行政・市民・事業者・関係団体の連携

#### (2) 観光資源を活かした地域の活性化

#### (3) 観光産業につなげる取り組みの充実

#### (4) 戦略的マーケティングの充実

### 3. 計画の見直しの基本的な方向性

#### (1) 観光まちづくりの推進

本計画では観光まちづくりの視点から、地域活性化の鍵となる取り組みとして観光を位置づけ、市民が誇りと愛着を感じ、住みつづけたいと思える甲賀市の形成を目指します。同時に、甲賀市を訪れた人に感動を与え、その感動が再びまちづくりに反映されること、そして、その魅力からいずれば甲賀市に移住したいと思えるまちの形成を目指します。

## (2) 関連部局・関係団体との幅広い連携の構築

全庁的な観光推進体制の構築に向け、まちづくり、都市基盤の整備、地場産業の振興、シティセールス、市民協働、人材育成、防災等、幅広い分野とのさらなる連携を推進し、市を挙げて観光振興に取り組むことを示す計画づくりを図ります。

## (3) 「甲賀流忍者」から広がる観光振興

本計画の推進にあたっては、甲賀流シティセールス基本戦略等の先行する取り組みを踏まえ、本市のイメージ形成の核である、「甲賀流忍者の末裔が今なお暮らす本物の忍者のまち」を積極的に活用し、「信楽（紫香楽）」、「東海道」をはじめとする市内の多様な資源と結びつけることで、総合的なまちの魅力の発信と観光振興に取り組みます。

## (4) 評価・検証指標の明示とマーケティングデータの収集

本計画においては、可能な限り具体的な数値に基づいた評価・検証が可能な構成とするとともに、戦略的なマーケティングの基礎資料でもある観光関連データについても市民、事業者、関係団体と協働して収集することを位置づけます。

## (5) 効果的な観光マネジメント推進組織の整備

既存の取り組みの評価・検証とそれに基づく具体的施策の企画・立案が行える体制を構築するとともに、市民、事業者、関係団体と連携して取り組みを展開できる体制の確立に向け、本市の観光振興の司令塔となる組織のデザインと、段階的な取り組みを本計画の中心的な課題とします。

# 第3章 計画の基本的な考え方

## 1. 基本理念と基本方針

### (1) 基本理念

甲賀市は、甲賀流忍者源流（発祥）の地としての独自性をはじめとして、紫香楽宮跡、日本六古窯・信楽焼、東海道、水口岡山城、甲賀郡中惣、甲賀の茶や薬など様々な固有の歴史、伝統様式、文化を有しています。こうした多様な地域資源を広く知られたものとしていくと同時に、本物の忍者の歴史のように、まだ十分に知られていない魅力や物語を発掘していく努力も求められます。

こうしたまちの魅力を行政だけでなく市民・事業者・関係団体で広く共有し、地域の歴史と文化に誇りを持てるまちづくりを進めると同時に、多様な資源を活かした観光振興による産業の発展をともに推進することで、誰もが訪れたい、住みたいと思えるような魅力ある甲賀市の形成に取り組めます。

### (2) 基本方針

方針1：忍びの里の 秘めたる宝 探す甲賀の まちづくり

方針2：歴史と文化 伝え育み 歩む甲賀の おもてなし

方針3：光る宝に 出会える旅に 増やす甲賀の あいごうが 愛好家

## 2. 基本戦略

### (1) 魅力向上戦略

本市が有する多様な地域資源を核としたまちづくりを進めることで、観光素材の発掘と観光資源としての魅力の向上に取り組みます。市民・事業者・関係団体との連携により観光資源の磨き上げや、新たな観光商品の開発、観光関連施設の整備、おもてなし体制の構築、甲賀流忍者と関連づけたプロモーション等を行い、魅力ある観光地としての甲賀市の確立と地域の誇りの醸成を目指します。

### (2) 誘客促進戦略

観光誘客の促進に向け、観光ルートの開発、各種イベントの開催、観光客受入環境の充実等を推進します。市民・事業者・関係団体と連携した積極的なPR活動や、甲賀流おもてなしの確立、戦略的なマーケティングを通じ、観光誘客の増加を目指します。

### (3) 地域活性化戦略

観光地としての学びの場を通じた観光に関わる人材の育成、市民・事業者・関係団体の意識の向上と、主体的な参加を推進し、訪れたい、住みたいと思えるまちの形成を図ります。観光事業の担い手の育成・支援を推進するとともに、マーケティングに基づいた観光施策を総合的にマネジメントできる組織の確立を目指した取り組みを行います。

## 3. 目標指標

### (1) 基本目標

【平成 27 年度】 293万人 (基準年)	【平成 31 年度】 314万人 (約 7%増)	【平成 32 年度】 322万人 (約 10%増)	【平成 36 年度】 352万人 (約 20%増)	【平成 40 年度】 381万人 (約 30%増)
------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

### (2) 進捗評価指標

①魅力向上戦略	②誘客促進戦略	地域活性化戦略
甲賀市ホームページアクセス数 (件)	年間外国人観光客 (人)	観光ボランティア登録者数 (人)
甲賀ブランド登録件数 (件)	市内観光消費額 (百万円)	(仮称) 甲賀市版観光DMOの設立

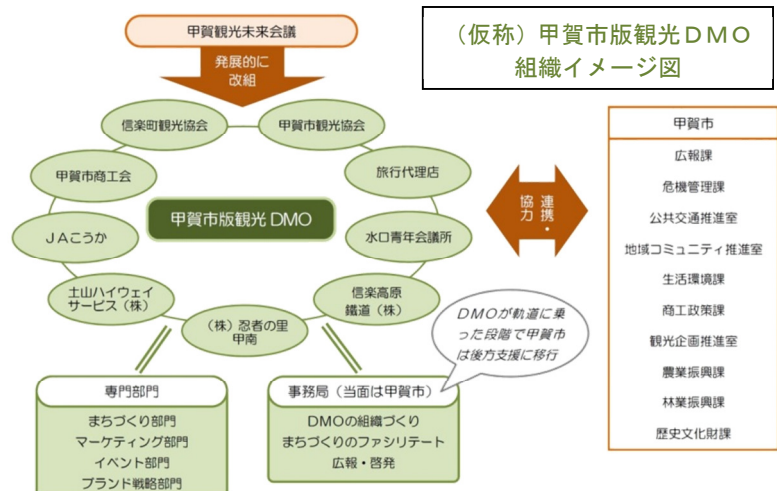
## 4. 計画の推進体制

### (1) 甲賀市における推進体制の確立

### (2) 市民・事業者・関係団体との連携・協働

### (3) (仮称) 甲賀市版観光DMOの設立

## 5. 計画の体系



## 第4章 基本計画



### 1. 魅力向上戦略



(1) 観光地の魅力向上	① 忍者の歴史・実態の調査と発信
	② “忍者の里”の雰囲気醸成
	③ 「(仮称)まちかど案内所」の設置
	④ 観光施設の整備
(2) 市民と連携した資源開発	① 市民協働によるおもてなし体制づくりと観光資源開発
	② 土山宿と水口宿の連携
	③ 市民主体の観光まちづくりの促進と地域の誇りの醸成
(3) 効果的なPRの推進	① 「甲賀ブランド」の一体的な推進
	② シティセールスの推進
	③ 地元情報の発信
	④ 日本遺産を活用したPRと観光促進

### 2. 誘客促進戦略



(1) 観光ビジネスとの連携	① 公共交通と連携した観光振興
	② 観光ビジネスマッチングの促進
	③ 営業活動による販路の開拓
	④ スポーツツーリズムの推進
(2) 誘客事業・イベントの開催	① 信楽まちなかを核とした観光誘客の強化
	② 忍者検定の充実
	③ 東海道宿場への誘客促進
	④ 産業観光の推進
	⑤ 農家民宿と農業体験プログラム
(3) 戦略的マーケティング	① マーケティング・リサーチの実施
	② 観光調査の実施
	③ 観光商品の造成

### 3. 地域活性化戦略



(1) 市民意識の向上	① 観光に関する市民向け講座の開催
	② 学びを通じた人材の育成
	③ 環境学習プログラムの推進
(2) 市民・事業者との協働	① 観光協会の機能強化
	② 観光ガイドの育成と組織化
	③ 空き家・空き店舗の活用
	④ 観光セミナーや研修・講習の開催
(3) 広域連携	① 忍者をキーワードとする自治体間連携の強化
	② 日本遺産に関する自治体間連携の強化
	③ 広域連携の推進
	④ 都市農村交流の充実
(4) (仮称) 甲賀市版観光DMOの設立	① 設立準備委員会の設置
	② 事務局機能の確立
	③ 組織体の設立